

天然油と加工油

乾性油の種類

油彩画で使用する代表的な乾性油(固着材)に、リンシードオイル、ポピーオイルがあります。いずれも植物の種子から搾り出したオイルです。搾油したものは夾雑物や色素といった不純物を含んでいます。そのままでは使えないので、不純物を取り除き、漂白して精製します。それが油彩画用のリンシードオイルとポピーオイルで、天然油と呼ばれています。その天然油を日に晒したり、加熱して性質を変えたものを加工油と呼びます。サンシット、リンシードオイル、スタンダードリンシードオイルがこれにあたります。

リンシードオイルとポピーオイル(天然油)

リンシードは「亜麻仁」、ポピーは「けし」のことです。名前の通りリンシードオイルは亜麻の種子から、ポピーオイルはけしの種子から精製します。リンシードオイルの特長はポピーオイルより乾きが早く、塗膜がカラッと仕上がります。黄変しやすいため、欠点を持っています。ポピーオイルは乾燥速度と塗膜の強靭さはリンシードオイルに劣りますが、黄変しにくい性質を持っています。

サンシット、リンシード、ポピーオイルとスタンダードリンシードオイル(加工油)

リンシードオイルを太陽光に長期間晒し、酸化重合を促進させたのがサンシット、リンシードオイルです。油絵具は固着成分である乾性油が空気中の酸素を吸って固まります。このプロセスが酸化重合です。酸化重合を促進したことにより、サンシット、リンシードオイルは生のリンシードオイルより高粘度になっています。生のもより早く乾き、丈夫な塗膜をつくれるという性質を備えています。水との相性がよいのも特長です。スタンダードリンシードオイルは、空気を遮断した状態でリンシードオイルを高温度(250~300℃)で過熱し重合させたオイルです。粘度はサンシット、リンシードオイルよりさらに高く、蜂蜜状をしています。乾きは遅くなりますが、絵具と混ぜて使うと筆跡を残さない柔軟な塗膜ができます。画面

に七宝のような艶ももたらします。

天然油と加工油の使い方

加工油は中世の画家たちが油彩画を描く過程で、乾燥性や作業性を高めるために工夫されたもので、スタンダードリンシードオイルはサンシット、リンシードオイルを速成で人工的に得るためにつくられたものです。ともに混合テンペラの材料や、油彩制作での画用液の原料に利用されました。ことにサンシット、リンシードオイルは水と相性がよいので、現在でもテンペラに利用されています。スタンダードリンシードオイルは穏やかな黄変性と強靭な塗膜を持つオイルです。表は天然油と加工油の「色」「粘度」「乾燥時間」を比較したものです。粘度はリンシードオイルが最も低く、サンシット、リンシードオイル、スタンダードリンシードオイルの順に高くなっています。筆触を生かそうとすれば、粘度の低い天然油の方が有利です。また、リンシードオイルの黄変する欠点を、画家は下地に白を塗ったり、明るい色の絵具を塗ることで補ってきました。テンペラやグレース技法を試みるなら加工油の方が適していますが、中世の画家はそれぞれの乾性油が持つ性質を利点、欠点としてではなく、個性と捉えることで表現の幅を広げました。

日本では印象派の出現(19世紀後半~20世紀初頭)とともに油彩技法が伝えられた印象が強く、明度の高い色を並べて描かれた油彩画、明度を高めるのに白が多用された不透明な画面が「アララ絵」として定着した感があります。しかし、加工油の持つ透明性を活用した技法が油彩画の本流にあつたことも事実です。油彩画の透明性を高めるために、それぞれ性質の異なる乾性油を積極的に活用することは大切なことです。

■各種リンシードオイルの比較

	色	使用粘度	乾燥時間
リンシードオイル(天然油)	黄色	低	2~4週間
スタンダードリンシードオイル(加工油)	黄色	高	10~15日
サンシットリンシードオイル(加工油)	黄褐色	中	1~3日

※乾燥：厚さ0.3mm 24℃にて乾燥させたもの



各種 油彩画用乾性油

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072 (985) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

ホルベイン工業株式会社 東京都豊島区東池袋2-18-4 TEL.03 (3983) 9251 大阪府東大阪市上小阪1-3-20 TEL.06 (6723) 1555



ホルベイン絵具

www.holbein-works.co.jp